

第5回滋賀県総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成29年3月9日(木)
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成29年2月10日(金)
15:30~17:15
滋賀県大津合同庁舎
7階7C会議室

テーマ
「これまでの総合教育会議の振り返りについて」

(参考)
平成28年度滋賀県総合教育会議のテーマ
第1回…学ぶ力
第2回…学びの変革、高大接続改革
第3回…キャリア教育、専門高校の教育
第4回…地域との連携・協働

平成28年度第5回滋賀県総合教育会議では、「これまでの総合教育会議の振り返りについて」をテーマに、今年度開催した4回の会議におけるテーマに基づき、滋賀の教育課題について意見交換を行いました。

学ぶ力、学びの変革、高大接続改革

【系統的な教育】

- 小学校入学段階での子どものつまずきを減らすため、保幼小の先生方が、それぞれがやっていることをお互いにもっと知る機会をつくる必要がある。
- 学校種間の接続だけではなく、産業や農業などと連携ができると滋賀の強みにつながるのではないか。
- 子どもが何ができるようになるのかを重視した、子ども本位の教育を、どう体系的に行うかを考える必要がある。

【教員の業務改善】

- 先生が、教師にしかできないことに取り組める環境というものをつくっていくことが大切。
- 子どもと向き合う時間の確保のために、仕事のスリム化やネットワーク化が必要。

【社会に開かれた教育】

- 子どもを教育の中に抱え込むのではなく、社会に送り出すことが教育であり、その意味で、教育は社会に開かれていないといけない。
- 滋賀県の子どもには、できるだけ早い段階から多くのものに触れ、子どもたちが多くの選択肢を持つことができるような教育をめざす必要がある。

キャリア教育、専門高校の教育

【専門高校の教育の充実】

- この学校に行けばこういうことが学べるとか、この学校はこういう分野に強いといった、専門高校のブランド化を進めていく必要がある。
- 専門高校を県として支えていくということであれば、設備的な部分での支援も必要ではないか。
- 何かを学ぶということと、何かを通じて学ぶという2種類があり、専門高校がどちらをどの程度重視するかは、産業界との連携の度合いに関わってくる。

【社会との接続】

- 学校で学んでいることが社会にどのようにつながっているのかを実感できるという意味で、インターンシップは重要な取組であり、インターンシップを受け入れる側と送り出す側が議論する場を設けてはどうか。
- 産業や農業、福祉など、社会と教育界との対話が必要。

地域との連携・協働

【地域との連携】

- 地域との連携・協働を進めていく上で、学校と地域をむすぶ地域コーディネーターが果たす役割は非常に大きい。
- 授業の充実だけでなく、部活動についても地域との関係で考えていく必要がある。
- 地域連携に関わってもらうために、個人の善意に頼るだけでなく、如何にインセンティブを発生させるかを考えていく必要がある。

【学校を核としたまちづくり】

- 人口減少が進む中で、学校を中心にしたまちづくり、学校を核としたまちづくりを進めていく必要がある。

<会議の様子>

